

第6回 日経「星新一賞」受賞者を決定

理系的発想力を問う文学賞、日経「星新一賞」（主催：日本経済新聞社）の第6回受賞者が以下の15名に決定しました。第6回は2018年6月1日から10月1日まで応募を受け付け、応募作品は一般部門1,564編、ジュニア部門765編、学生部門160編で、総数は第5回の2,209編より280編多い2,489編でした。人工知能（AI）やクローンを題材にした作品の応募が多く、学生・ジュニア両部門のグランプリ作品もクローンに関する作品でした。AIによって創作された作品の応募も5編（第5回は7編）ありましたが、1次審査を通過した作品はありませんでした。

日経「星新一賞」について

星新一氏が残した創造性あふれる作品は、現実の世界で科学に取り組む人たち、未来を創ろうとしている人たちを刺激してきました。日経「星新一賞」は形式やジャンルにとらわれない理系的な発想力、想像力を問う新しい文学賞として2013年に創設。SF作家・SF評論家による複数の予備審査の後、最終審査を経て、このたび受賞者を決定しました。第6回の最終審査員は藤井太洋氏（作家）、中野信子氏（脳科学者）、森内俊之氏（将棋棋士）、大栗博司氏（カリフォルニア工科大学教授）、辻井潤一氏（産総研フェロー）、滝順一（日本経済新聞社編集委員）の6人で、一般部門グランプリは賞金100万円。受賞作は3月上旬以降、電子書籍販売サイト「honto」で電子書籍として配信予定です。

（無料。利用登録が必要）

※詳細は日経「星新一賞」公式ウェブサイト <http://hoshiaward.nikkei.co.jp/>

※第1回～5回受賞作品集も「honto」で無料配信中（利用登録が必要）

一般部門グランプリ

「SING×レインボー」

梅津 高重（うめづ・たかしげ）氏

文明崩壊の瀬戸際にある近未来。人類は偶然 1 つだけ生き残っていたゲームの機能に基づく全地球規模の通信網に依存して暮らしていた。通信維持のため毎日ゲームのノルマをこなさざるを得ない主人公は、その作業に虚しさを覚えていた。ある日、サーバーにアクセスできると称する人物が発見され、状況改善の期待を持って救助される。しかしそれは、通信帯域の大幅な増加とともに主人公のノルマの増加をもたらしてしまった。

ジュニア部門グランプリ

「クローン」

岩井 太佑（いわい・だいすけ）氏

2118 年になったこの時代では、100 年前から始まったといわれる異常気象の影響で季節の移ろいなどというものがなくなり、ほとんどの仕事を AI に取って代わられ多くの失業者が出た。そんな混沌とした時代の中、キリストや釈迦を蘇（よみがえ）らせようと考えたものが出てきた。そしてキリストが纏（まと）っていたといわれている布から DNA を採取し、キリストのクローンが作られた。そしてキリストのクローンがもう一人また一人と作られ……。

学生部門グランプリ

「創訳する少女」

藤田 健太郎（ふじた・けんたろう）氏

2048年。クローン人間の私は日本語を話し、オリジナルである彼女は英語を話して暮らしている。最新の翻訳機を試すテストで、私たちは初めて顔を合わせた。同一の存在であるはずの私たちは、「転聴器」と呼ばれる装置によって互いの差異を認識し始める---

一般部門優秀賞

J B C Cホールディングス賞

「コンティニュアス・インテグレーション」

安野 貴博（あんの・たかひろ）氏

アマダホールディングス賞

「Meteobacteria」

揚羽 はな（あげば・はな）氏

旭化成ホームズ賞

「不安」

マウチ（まうち）氏

東京エレクトロン賞

「KANIKAMA」

竹内 正人（たけうち・まさと）氏

日本精工賞

「アルティメットパッション」

神谷 敦史（かみや・あつし）氏

スリーポンド賞

「ピピの物語」

代 哲安（だい・てつやす）氏

ジュニア部門

準グランプリ

「ゆりちゃんの友達」

岡本 優美（おかもと・ゆみ）氏

優秀賞

「商店街に挟まった日」

山沢 智知（やまざわ・ともし）氏

優秀賞

「決められた未来」

養太朗（そうたろう）氏

優秀賞

「素晴らしき AI 社会」

岡田 萌花（おかだ・もえか）氏

学生部門

準グランプリ

「ゼロ体温とオリーブオイル」

大貫 瑠香（おおぬき・るか）氏

優秀賞

「良心の種」

関崎 歩（せきざき・あゆむ）氏